

委員会視察記録

委員会名	文教警察委員会			
期 間	令和4年10月18日～20日			
参加者	委員長 江間 治人	副委員長 鈴木 啓嗣	副委員長 四本 康久	
	委員 天野 一	委員 増田 享大	委員 相坂 撰治	
	委員 岡本 護	委員 高田 好浩	委員 中沢 公彦	
	委員 田内 浩之			
視察先	<ol style="list-style-type: none"> 1 石巻市震災遺構 大川小学校（宮城県石巻市） 2 宮城県仙台二華中・高等学校（宮城県仙台市青葉区） 3 福島県警察本部庁舎（福島県福島市） 4 福島県警察本部交通管制センター（福島県福島市） 5 會津藩校日新館（福島県会津若松市） 			

視察の概要

10月18日（火）

■ 石巻市震災遺構 大川小学校

<概要>

震災遺構には、震災に関することを伝える場所や多くの命が失われた場所があり、当地は後者に該当する。

震災当日、地震の約45分後に高さ約9メートルの津波が北上川の上流方向など複数方向から大川小学校付近に押し寄せてきた。地震の直後に発令された避難警報に従い直ぐに避難した小学校付近の住民の中には命が助かった者もあり、津波到達直前まで避難できる機会があった。

大川小学校では避難開始の決定が津波到達直前と遅く、避難方向も普段から児童が登り慣れていた高台である裏山と反対方向であったため、児童の命が失われる事態となってしまった。

近隣の他の小学校では避難が適切に行われ、児童などの命が助かったところもいくつかあった。

学校における津波避難では、地震後の避難開始判断のタイミングと避難の方向が大事であり、とっさの判断、決定を行える体制と適切な行動（避難）を行えるよう通常時からの準備、徹底が重要である。



10月19日（水）

■ 宮城県仙台二華中・高等学校

<概要>



仙台二華高等学校では、2021年4月から東北地方の公立高校として初めて国際バカロレア教育（IB）をスタートさせた。

IB課程は高校の2年次から始まるため、1年次がIB課程に向けての準備期間となる。現在IB課程には1期生（現3年生）7人、2期生（現2年生）6人が在籍している。

元々世界各国の外交官や国際機関職員などの子供たちへの世界標準の教育プログラム提供のために開発された教育プログラムであるIB課程では、生徒は文科省が定める基準以上の英語による授業受講を求められる。また課程在籍時を通じた特定の研究課題の探究と卒業時に当該探究結果をまとめた日本語8,000字程度の課題論文作成も求められる。

IB課程の生徒は、従来型の全科目を広くではなく、特定科目の深い部分を学ぶ形となる。卒業後の大学進学では、国内大学の一般受験では不利になるため、総合選抜型、学校推薦型選抜や指定校推薦、あるいは海外大学への進学を検討することとなる。

<主な質疑応答>

Q IB課程におけるキャリア教育、将来のキャリア形成の考え方は。

A 校外活動を重視しており、本物（仙台二華高等学校ではカンボジアの人々の生活など）を見ることに重点を置いている。

Q IB課程で求められる英語レベルへの対応は。

A IB課程では英語での授業があることを生徒に早めに予告するようにしている。同課程を受講予定の生徒には1年次の6月頃から3～4か月かけてIB課程プレ版の授業を受講してもらうとともに、足りない部分を自分で努力してもらうようにしている。

Q IB課程専属の教師はいるか。

A IB課程の専属の教員は置かず、多くの教師がIBの授業を担当するようにしている。この体制によりIBを担当する教員がIB以外を担当したり他校に異動した際にはIBのノウハウを広めてもらえると考えている。

Q IB課程での授業からの脱落に対する対応は。

A 先に説明したプレIBの授業で取り組むとともに、IBを受講する生徒には覚悟を決めてもらうようにしている。なお、IB課程は生徒個人単位でなく、ディベートなど複数人、集団で授業を進めているので脱落しにくい環境になっている。脱落しそうな生徒に対して他の生徒が支援、応援することもある。

■ 福島県警察本部庁舎 福島県警察本部交通管制センター

<概要>

福島県警察本部庁舎は、平成29年度に完成し、平成30年度から業務に使用されている。東日本大震災の経験を踏まえた危機管理拠点の実現のために建てられた庁舎は、建築基準法上の7階の高さに相当する6階建ての建物である。震災対応を意識しており、建物の0.5mか



さ上げ、地下室を設けない、非常時対応諸室や機械室の2階の配置といった特徴を有している。

福島県交通管制センターは、平成31年3月から福島県警察本部庁舎2階において福島県内の道路交通の安全と円滑を図り、良好な交通環境の確保に努めている。具体的には、道路上に設置された各種車両感知器等からの交通情報の収集、交通情報の分析・処理、信号機の制御や交通情報の提供に取り組んでいる。

<主な質疑応答>

Q 福島県警察本部庁舎の総工費は。

A 125億円である。

Q 庁舎西方にある火山について、噴火想定及び新庁舎整備での配慮についてはどうか。

A ハザードマップから、新庁舎付近には泥流が押し寄せ被害が発生することが想定されている。そこで新庁舎を整備するに当たっては1階に泥流が押し寄せられることを想定し、通信危機などを2階以上に配置するなどの対策を行った。

Q 東日本大震災後の刑法犯の状況は。

A 刑法犯の被害が多かったのは原発事故発生後で、住民が避難によりいなくなった後にATMの破壊が多く発生した。また、民家における火事場泥棒のようなものも発生した。ただ、検挙率はそれほど下がらなかった。

Q 原発事故に対応する防護服等の装備はどうであったか。

A 機動隊と各警察署に装備してあったので、それらを使用した。その後、警察庁からも補充があった。

Q 東日本大震災の前後で警察本部の体制に変化はあったか。

A 災害対応については、震災前は警備部の災害対策課と専門の警備官が中心となり定数300人の体制を構築していた。

しかしながら、この体制では人員が足りないことが判明したため、特別職として320人の増員を認めてもらい、他県等からの応援を受け入れて体制を構築してきた。現在も121人増やしている状態にある。

10月20日(木)

■ 会津藩校日新館

<概要>

会津藩校日新館は、江戸時代に全国三百藩校の中で規模内容ともに随一とうたわれた会津藩の学校である。会津藩五代藩主の松平容頌時代に、家老の田中玄中の「教育は百年の計にして会津藩の興隆は人材の養成にあり」との進言によって計画され、5年の歳月をかけ享和3年(1803年)に完成した一大学問の殿堂である。その後、戊辰戦争で焼失したため、昭和62年に現在の建物が完全復元された。

